

# 2023年度入学試験問題

## 国 語

(11月19日)

経営学部 経 営 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
法学部 法 律 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
文学部 人 間 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
教育学部 教 育 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
教育学部 児 童 教 育 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
看護学部 看 護 学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)  
国際教養学部 国 際 教 養 学 科(数学を選択しても可)

開 始 午前10時30分

終 了 午前11時30分

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は19ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答用紙はマーク式と記述式に分かれています。マーク式で 

10
----

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	○ a	○ b	◎ c	○ d	○ e
----	-----	-----	-----	-----	-----

記述式の解答は(国語・記述式)とある解答用紙に記入してください。

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。





次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

人間同士の交流は、デジタル化時代においても重要である。むしろ、デジタル化時代だからこそ、より重要性が増す側面がある。というのも、単純で定型化した作業は機械によってダイタイ<sup>ア</sup>することが可能であるため、定型化していない対話に基づく交流の相対的重要性が高まるからである。さらに、SNSを通じてデジタル空間上のやりとりなどが可能になることも理由として挙げられよう。他方で、交流する人数や処理しなければならない情報量が増えすぎてしまうかもしれない。デジタル空間でのやりとりは匿名になりがちであるが、これにより個人への攻撃が起こる恐れもある。デジタル化時代では他者との関わりが重要になる一方で、関係の対等性が失われてしまう可能性がある。人びとが自由に対等な対話をすることができるように、デジタル化社会が内包する不安定性を和らげるための工夫が必要だろう。

アレントは20世紀において最も影響力のあった思想家の一人である。彼女の思想の特徴は、アカデミズムにおける哲学的議論にとどまらず、あくまで一人の人間として哲学に向き合った点にある。彼女自身の人間としての生が、その思想のうちに現れている。

アレントは、人間存在の条件に関する重要なアイデアを提案している。アレントによれば、「人間の条件というのは、単に人間に生命が与えられる場合の条件を意味するだけではない」。なぜなら、「人間が接触するすべてのものがただちに人間存在の条件に変わる」からである。人間の生きる社会は、人間によって成り立っている。社会制度やシステムは、人間によって作られたものなのである。それと同時に人間は、自分が作り出した制度やシステムに条件づけられてしまう。このことを明確に述べた、次のメイダイ<sup>イ</sup>は強い印象を与えるだろう。

なにをしようと、人間はいつも条件づけられた存在である

先ほどのアレントの言葉にあったように、人間の条件とは、一人ひとりの人間が「接触する<sup>シ</sup>」ことにある。アレントの思想の根幹にあるのは、人間が何かに「接触する」ことによって生きているという感覚だろう。この接触とは、「机に触る」というような直接的なものだけでなく、自分ではない何かを知覚し、対峙<sup>たいじ</sup>すること全般を指している。人は何らかのかたちで、自分の外部に接し対峙せざるを得ない。食べること、働くこと、ものを作ること、話すこと、こうしたことの全てが外部との接触なのである。この外部は人間が関わるところの全てのものとして捉えられ、人が作ったものではない自然、人がつくったもの、そして他者といったあらゆるものを含む。どのように何と接触するのか、が問題なのである。これを言い換えると、人間はどのように条件づけられているのか、という問いとなる。

アレントの思想において注目すべき点は、古代ギリシアの思想から「活動」という概念を抽出し、その本質的な意義を論じたことである。アレント

は人間の「**X**」の意味合いに強い関心を寄せる。広い意味での人間の生活の仕方、あるいはそのための営為、その総体がアクティヴィティである。『人間の条件』の中で、アクティヴィティを三つの基本的種類に区分している。それがどのようなものであるのか、誤解をおそれず単純化し、述べておこう。

「労働 (labor)」… 生命の維持のためのアクティヴィティ

「仕事 (work)」… 永続的なものや耐久性のあるものを生み出すためのアクティヴィティ

「活動 (action)」… 人と人とのあいだで行われるアクティヴィティ

アレントによれば、これらのアクティヴィティが、人間の条件を<sup>ウ</sup>オリなす。

「労働」は、人間が生命体であるがゆえに行うものである。食べ物を手に入れようとする行為は、このような意味での「労働」である。いかに有意義な生活を送ろうとしても、そもそも生きていることが大前提なので、「労働」は生活に欠かせない。生命体として維持されて初めて、それ以外のアクティヴィティが可能となり、人間の生活をより有意義なものとすることができる。

経済学では、社会生活における人びとの時間の使い方を、労働と余暇の二つに分ける。これは、効用と不効用しか意味をなさないという、功利主義的思考に従っているところが大きい。アレントは、こうした経済学的な思考に基づくことなく、人間の社会生活をより深く考えようとしている。アレントからすれば、「労働か余暇か」という単純な捉え方こそが、近代の生み出した<sup>D</sup>錯誤なのである。

実際、アレントの「労働」は、経済学的な労働の概念とは異なる。このことは、アレントにおける「労働」と「仕事」の区別を確認するとわかりやすい。アレントにとっての「労働」は、人間が生命を維持するための食糧をはじめとする消費財を自然から生み出す目的でなされる。一方で、「仕事」においては、美術作品や耐久財など、すぐに消費されたりせず、長くこの世界にとどまるような財が生み出される。労働にせよ仕事にせよ、人が自然に対して何らかの行為を行うことで財が生み出される点に特徴がある。

経済学的には、耐久性のない消費財であろうと、耐久財であろうと、生産に費やされる時間の全てが労働となる。それに対して、どのようなものを作るかということが、アレントにとっては重要となる。こうしたことから、「労働」と「仕事」を区別しているのである。

アレントの考える「活動」はさらに興味深い。「活動」とは、複数の人びとが自然を媒介させずに行うものである。その主な特徴として、アレントは「自由」と「複数性」を挙げている。人間は、一人ひとりが固有な存在である。そこでは人々は、それぞれ異質な存在である。「活動」においては、異質な存在である人間と人間とが向き合うことになる。それゆえ、ここでは複数性が重要な意味を持つのである。異質な存在が、必要に迫られたような営為から離れて、公的領域で向き合うことで、人の「**Y**」が達成される。

異質な人間と人間が対等に語り合い、思考停止に陥ることなく、熟慮を重ねていくことが、「活動」の本質である。この「活動」は、アレントにとって人間の条件の根幹をなすものである。しかし、人間が十分に「活動する」ことは決して簡単なことではない。

デジタル化時代におけるアクティヴィティについて、これから検討を進めていくうえで注意しなければならない点を挙げておきたい。

それは、「労働」「仕事」「活動」のそれぞれにアレントが付与した意味と、日常生活でこれらの言葉を用いる際の意味にはずれがあるということである。

Z

(加藤晋・伊藤聖聖・石田賢示・飯田高『デジタル化時代の「人間の条件」』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

- |   |  |
|---|--|
| <p>ア <u>ダイタイ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 銀行でリョウガ工をする</li> <li>(b) 友人に本をカす</li> <li>(c) ミノシロキンの要求</li> <li>(d) セケンテイを気にする</li> <li>(e) 景品をコウカンする</li> </ul> | <p>イ <u>メイダイ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 感動したメイゲン</li> <li>(b) メイロのような路地</li> <li>(c) 船のキュウメイ胴衣</li> <li>(d) メイアンが分かれる</li> <li>(e) ドウメイ国になる</li> </ul> |
|---|--|

- ウ オリなす
- (a) セツカクの機会
  - (b) ジョウゲに揺れる
  - (c) フクシヨクデザイナー
  - (d) ソシキ的な犯罪
  - (e) 電車の乗りオリ

問二 傍線部A「人間同士の交流は、デジタル化時代においても重要である」のはなぜか。その理由として、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、4。

- (a) デジタル機器は情報を定式化することが得意であり、そうした情報を活用することにより人間同士の交流が活性化するため。
- (b) デジタル空間に出現したSNSは、他のツールで置き換え不可能な人と人との交流を促進する機能を備えているため。
- (c) 人と人が話し合う過程は非定型であると同時に、そうしたやりとりがデジタル空間においても可能になるため。
- (d) 人間同士の対話には創造性などの価値があり、同様の価値はデジタル機器によっても創出可能であるため。
- (e) 人間同士の交流には本来普遍的な価値が備わっており、近年のデジタル化の流れを受けてその価値が見直されているため。

問三 傍線部B「デジタル化社会が内包する不安定性」とはどういう意味か。その説明として、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、5。

- (a) 単純作業はデジタル機器により置き換えが可能なため、人間の存在意義が揺らいでいるということ。
- (b) デジタル空間で求められる、理想的なコミュニケーションのあり方が分からないということ。
- (c) 情報との接し方を間違えると、個々人の身に危害が及ぶ可能性があるということ。
- (d) 多くの人と大量の情報の中で、安全で対等な関係を構築することは難しいということ。
- (e) ネット上の情報が、人々の情報源のすべてとなってしまふことへの不安があるということ。

問四 傍線部C「接触する」の説明として、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

- (a) 人間がつくったものに限らず、私たちは何かに接触することによって生きている。
- (b) 私たちが外界のものに触れる瞬間、外界と相互作用しているといえる。
- (c) 自然や人工物、さらに他の人間との接触が、人間の生命維持活動のすべてである。
- (d) 直接あるいは間接の接触により、私たち人間は外界に働きかけることができる。
- (e) 外界との接触を拒むとき、人間は人間として存在することができない。

問五 空欄 X に当てはまる言葉として、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7。

- ① 死ぬこと
- ② 触れること
- ③ 探すこと
- ④ 働くこと
- ⑤ 為すこと

問六 傍線部D「アレントにおける『労働』と『仕事』の区別」とあるが、アレントの定義における「労働」と「仕事」の相違点について、「労働」

と「仕事」という二つの語をそれぞれ一回以上使用して、四十字以内（句読点も一字と数える）で説明しなさい。解答番号は、I。

問七 空欄 Y に当てはまる言葉として、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8。

- ① 接触
- ② 自由
- ③ 労働
- ④ 仕事
- ⑤ 交流



問八 空欄

Z

には、次の①～④の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- ① この場合、耐久性のあるものを生み出す「仕事」と見なされるだろう。
- ② 例えば、映画製作会社で働いている場合、そこで行ったことは、後世まで残る映画作品の誕生につながることもある。
- ③ このようにアレントは、「労働」や「仕事」というものに、日常的に使われる際のそれとは異なる意味を与えたのである。
- ④ ある人が勤務先で働いているからといって、必ずしもそれはアレントの言う意味での「労働」であるとは限らない。

- a ① ↓ ② ↓ ④ ↓ ③
- b ② ↓ ① ↓ ③ ↓ ④
- c ② ↓ ④ ↓ ① ↓ ③
- d ④ ↓ ① ↓ ② ↓ ③
- e ④ ↓ ② ↓ ① ↓ ③

二 次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

<sup>A</sup> 世界は点でできている。このことを僕に教えてくれたのはルイ・ブライユである。一三歳で目が見えなくなった僕は、点字にさわって本を読み、知識を増やした。初めて書いたラブレターも点字だった。最初に点字に触れた時、「こんなブツブツを読めるわけない」と感じた。でも同時に、ブツブツが指先をくすぐる心地よい感覚も鮮明に記憶している。やがて、点は文字へ、さらには文へと変化し、僕に学びと楽しみをもたらした。<sup>B</sup>「見識」という言葉があるが、僕の場合は点字によって「**X** 識」を蓄積したともいえるだろう。【①】

点は線となり面となって世界を動かす。このことを僕に知らせてくれたのはルイ・ブライユである。目が見えなくなった僕は、白い杖を使って、一人で学校に通った。大学に入ってから、京都で一人暮らしを始めた。僕がふらふら街を歩けば、誰かにぶつかる。声をかけ、声をかけられながら一歩ずつ前に進む。いっしょに歩いてくれる家族や友人もいる。今、僕は一人静かに机に向かう。一点ずつ、一文字ずつ、この文章を点字で書いていく。そんな僕は目に見えない力に支えられている。僕の手を動かすのはたくさんの仲間、そしてルイ・ブライユである。【②】

ルイ・ブライユは一人で点字を発明した。だが、彼を支援する友人や家族がいたことも忘れてはならない。ブライユは、目の見えない人が一人で簡単に読み書きできる文字として点字を考案した。彼が点字を発表してから約二〇〇年。世界中の視覚障害者が点字を通じて「**X** 識」を獲得してきた。点字使用者個々の点は線となり面となって世界を動かした。その流れの中に僕もいる。【③】

学習まんの表紙カバーに掲載されているフランス国旗に触れてみよう。フランス国旗の青・白・赤は自由・平等・友愛を象徴するともいわれる。すくなくとも、この三色旗が世界各地の人々に自由・平等・友愛の夢を与えたのは間違いないだろう。しかし、目の見えない人には青・白・赤の色を認識することができない。この事実が端的に物語るように、自由・平等・友愛を求めて「市民」が決起したフランス革命においても、目の見えない人（障害者）は忘却されていたのである。【④】

ルイ・ブライユは視覚障害者の自由・平等・友愛の実現のために一生を捧げた。色は見えなくても、手触りの違いで国旗を理解することができる。学習まんがでは、青を斜線、白を無地、赤を点点で表示した。斜線は勢よく伸び、縦にも横にも柔軟に対応する「自由」。無地はどこまでも平らで、滑らかに広がる「平等」。点点は小さな突起が集まって結束し、静かに燃える情熱的な「友愛」。三色旗の触図に手を置くと、僕にはブライユの声が聞こえてくる。文字が読み書きできる自由を、目が見える・見えないに関係なく社会に参加する平等を、自分と同じハンディを持つ仲間や後輩のために努力を続ける友愛を。この「さわる国旗」にはブライユの思いが凝縮されている。【⑤】

僕は点字の誕生・普及のドラマを「もう一つのフランス革命」とは呼びたくない。なぜなら、点字の発明は目が見えている人にも大きな影響を及ぼ

す可能性を秘めているから。

ブライユが点字を公表するまで、文字は線の組み合わせで表すというのが常識だった。盲学校でも、線を盛り上げた浮き出し文字が使用されていた。たしかに、目で見ると文字は線で書き表すのがいいだろう。だが、触覚で読み取る文字にはそれに適した形がある。多数派の論理、固定観念にとらわれずに、点による文字を作り上げたブライユの「しなやかな発想力」はすばらしい。

視覚文字の構成要素である線は、直線・曲線、縦・横・斜めなど、無数に存在する。文字のバリエーションが示すように、視覚エウイアの社会では数を増やすことが重視される。「より多く」というのが近代化のトレンドだといえよう。大量生産・大量消費が日常化した僕たちの社会では、さまざまな選択肢を保持することが「豊かさ」のバロメーターとなっている。ブライユは近代化の潮流に抗して、「より少なく」という意識で六点点字を創造した。わずか六つの点の配列で各国の言語、数字や楽譜まで表現できる点字は、まさに「点の芸術」である。ブライユは、バルビエの一二点点字をヒントとして、点の数をシボイり込んでいき、六点に到達した。少ない材料から多くを生み出す「したたかな創造力」が点字を成立させたのである。

<sup>D</sup>しなやかな発想力、したたかな創造力。この二つは現代を生きる僕たちにとって大切なものではなからうか。とくに、未来を担う子どもたちには点字の学習を通して、この二つの力を養ってもらいたい。ブライユの業績は、視覚障害者の世界にとどまるものではない。だから、点字の登場を「もう一つのフランス革命」と称するのは不十分だろう。僕はここで強調しよう、ルイ・ブライユは真の自由・平等・友愛を具現した「フランス革命の大成者」である！

(広瀬浩二郎『目に見えない世界を歩く』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) この箇所を含めて、本文にある「障害者」の表記は、全て著者による表記である。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

10、イが 11。

- |   |             |   |               |
|---|-------------|---|---------------|
| ア | ユウイ         | イ | シポリ           |
| ① | シユウを決する     | ① | 不当なサクシユを行わない  |
| ② | ユウキユウの時を超える | ② | 条約をテイケツする     |
| ③ | ユウガに書かれた文字  | ③ | 二つはキンミツな関係にある |
| ④ | ユウズウがきかない人  | ④ | 壁をセンリヨウするポスター |
| ⑤ | 生死を共にしたメイユウ | ⑤ | コウシュケイを免れた    |

問二 本文を大きく二つに分けるとすれば、前半の最後は本文の①～⑤のどこか、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

12。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問三 傍線部A「世界は点でできている」とは、どのようなことを言っているのか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記

号をマークしなさい。解答番号は、

13。

- ① 世界が線・面へとつながる基礎として点がある。
- ② 文字や文は点が集まってできたものである。
- ③ 自分が認識する世界は、点が集まってできている。
- ④ 見える人も見えない人も、点を基本に考えている。
- ⑤ 自分の生きる世界を、点を通して理解している。

問四 傍線部B「見識」において、一般的な意味に加えて筆者がこの本文中で意図している意味として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- (a) すぐれた考え・意見
- (b) いばった態度
- (c) 見ることによる理解
- (d) 対象を理解する力
- (e) 色や形を判断する能力

問五 二箇所空欄  を含む言葉は、筆者による造語であるが、空欄  に共通に入れるのに最も適切な漢字一字を、本文から抜き出して記しなさい。解答番号は、

問六 傍線部C「『もう一つのフランス革命』とは呼びたくない」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解

答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- (a) フランス革命の考え方を完成させたものと捉えているから。
- (b) フランス革命自体が、手放して賞賛できる歴史的な事件ではないから。
- (c) 二つを同等のレベルのものとして扱いたくないから。
- (d) フランスという地域で起こった出来事ではないから。
- (e) 点字の発明は、目が見えない人に限定した影響力しかないから。

問七 傍線部D「しなやかな発想力、したたかな創造力」について筆者はどのように説明しているか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、16。

- (a) 多数派の論理にとられることのない発想力と、さまざまな選択肢を豊かに保持しながら練り上げていく芸術的創造力
- (b) 触覚を使うコミュニケーションではそれに適した線のあり方があるという発想力と、大量生産・大量消費の現代においてあえて少なくするという創造力
- (c) 常識に従うようにみせて常識を越えていく発想力と、少ない材料をもとに無限のものを生み出す創造力
- (d) 目で見る発想にとられずに独自の方法を考えた発想力と、選択肢をしばり込んでも多くを作り上げられるという創造力
- (e) 現代を生きる私たちにとって必要な発想力と、未来を担う子どもたちにとってこれから必要となる創造力

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

ときどき自分の名前が思い出せなくなった。多くは、思いがけず誰かから名前を尋ねられた場合だった。たとえばブティックでワンピースを買って、袖の寸法をなおすことになり、店員に「失礼ですが、お客様の名前は何？」と質問されたようなときに。

W 仕事の電話でしかるべきやりとりがあり、最後になって「ところでお名前をもう一度いただけますか？」と言われたようなときに、そこでとつぜん記憶が消え失せてしまう。自分が誰なのかわからなくなってしまふ。だから名前を思い出すために、財布をひっぱりだして運転免許証を見なくてはならず、当然のことながら相手に不思議な顔をされたり、あるいは——ぼっかり奇妙な間が空くことで——電話の向こうでフシン<sup>ア</sup>に思われたりすることになる。

自分の方から意識して名前を名乗る場合には、そういう「名前忘れ」は起こらない。それなりの心の準備ができていれば、問題なく記憶を管理することができる。

X 慌ただしくしているときや、まったく無警戒でいるときに、相手から出し抜けに名前を尋ねられると、まるでブレーカーがすくとと下りたみたいに、頭の中が空白になってしまう。名前がどうやっても出てこない。手がかりを求めれば求めるほど、彼女はその輪郭のない空白に呑み込まれていく。①

思い出せなくなるのは、自分の名前に限られていた。まわりの人の名前を忘れることはまずない。自分の住所も、電話番号も、誕生日も、パスポート番号だって、忘れない。親しい友人の電話番号や、大事な仕事関係の電話番号は、ほとんどぜんぶそらで言える。記憶力は昔から悪くないほうだった。思い出せなくなるのは、ただ自分の名前だけなのだ。名前忘れが始まったのは一年ばかり前からだが、それ以前にはそんな経験をしたことは一度もなかった。

彼女の名前は「安藤みずき」だった。結婚前の名前は「大沢みずき」。どちらもとくに独創的な名前とも言えないし、ドラマティックな名前とも言えない。しかし、だからといって、慌ただしい日常に紛れて記憶からついこぼれおちてしまうのもまあ仕方あるまい、ということにはもちろんならない。②

彼女が「安藤みずき」になったのは、三年前の春のことだ。彼女は「安藤隆史」という名前の男性と結婚して、その結果、安藤みずきと名乗るようになった。最初のうちは安藤みずきという名前にうまく馴染めなかった。字面も音の響きも、いささか落ち着きが悪いように感じられた。しかし何度も口にし、繰り返し署名をしているうちに、安藤みずきもそれほど悪くないかと、だんだん思えるようになってきた。

\*たとえば「水木みずき」とか「三木みずき」とか、そういう語呂あわせのような名前を名乗らなくてはならない状況だつて起こり得たのだから（彼女は短いあいだではあるけれど、実際に三木という名字の男性と交際していたことがある）、それに比べれば「安藤みずき」はまだ上出来の部類では



ないか、と思った。 Y 彼女は徐々にではあるけれど、その新しい名前を自分自身のものとして受け入れていった。

しかし一年前から、その名前は突然逃げ出し始めた。最初は一ヶ月に一度くらいだったが、日を追うにつれ頻度が増してきた。今では少なくとも週に一度はそれが起こる。「安藤みずき」という名前がいったん逃げ出してしまつと、彼女は誰でもない「名前のない一人の女」として世の中に残り残されることになった。財布があるうちはいい。それを出して免許証を見れば、自分の名前はわかる。しかしもし財布をなくしてしまつたら、もう自分がどこの誰だか見当もつかないということになってしまうかもしれない。もちろん名前を一時的に失つても、彼女は彼女としてそこにあるわけだし、自宅の住所も電話番号も覚えているから、存在がまつたくのゼロになるというわけではない。映画に出てくるような全面的な記憶喪失とは話が違ふ。しかし自分の名前が思い出せないというのは、やはりおそろしく不便であり、不安なことだった。名前を失つた人生は、まるで覚醒の手がかりを失つた夢みたいに感じられる。

彼女は宝飾店に行つて、細くてシンプルな銀製のブレスレットを買い求め、そこに名前を彫つてもらつた。「安藤（大沢）みずき」という自分の名前を。住所も、電話番号もなし。ただ名前だけ。これじゃまるで犬か猫みたいだ、と彼女は自嘲的に思った。彼女は家を出るときには、必ずそのブレスレットをつけた。自分の名前が思い出せなくなつたら、ブレスレットにちらりと目をやればいいのだ。そうすれば名前を思い出すためにいちいち財布を引っぱり出さなくてすむ。相手に妙な顔をされることもない。 ③

自分が日常的に自分の名前を思い出せなくなつていゝことを、彼女は夫には打ち明けなかつた。そんなことを話したら、夫はたぶん「それは君が、結婚生活に不満や違和感を持つてゐるからじゃないかな」というようなことを言い出すに決まつてゐる。とにかくそういう理屈っぽいことを持ち出すのが好きな人なのだ。悪気はないのだが、何ごとによらずすぐに論理化してしまふ。彼女はそういうものごとの決めつけ方が、どちらかといえば苦手だった。おまけに弁が立つものだから、簡単には言い負かすことができない。だからこのことについては黙つていようと心を決めた。 ④

\* 考え方には多少旧弊などところがあるけれど、夫は次男なので、それほどうるさいことも言われずにすむ。彼女は名古屋の生まれ育ちなので、北国酒田の冬の寒さと風の強さにはいささか閉口させられたが、年に一度か二度短いあいだ訪れるのにはなかなか良いところだ。二人は結婚して二年後に、ローンを組んで品川に新築のマンションを買つた。夫は現在三十歳で製薬会社の研究室に勤務してゐる。彼女は二十六歳で、大田区にあるホンダの販売店で働いてゐる。電話がかかつてくると受話器をとる、客が来店するとソファに案内してコーヒーをお茶を出す、コピーが必要ならコピーをとる、書類を保管し、コンピュータのコキヤクリストを管理する。

(中略)

彼女は勤務先ではいまだに結婚前の名前を使い続けている。顔見知りの客や取引先の人々にいちいち改姓の理由を言ってしまうのが面倒だというのが、いちばん大きな理由だった。(中略)しかしそれは彼女が「安藤みずき」という名前を拒否しているからではない。彼女はただ、みんなに事情を説明するのが面倒だから、結婚前の姓をずるずると使い続けているだけなのだ。【5】

彼女が仕事場で旧姓を使い続けていることは夫もシヨウチしていたが(たまに仕事場に電話をかけてくることがあったから)、そのことととくに異論は唱えなかった。彼女が自分の職場でどんな名前を使おうと、それはあくまで彼女にとつての便宜的な問題に過ぎないと考えているようだった。いちおう理屈が通っていけば、うるさいことは言わない。そういうところは楽と言えば楽である。

(村上春樹「品川猿」による。設問の関係上、本文を改めたところに\*を付した。)

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

イが 18、ウが 19。

ア フシ|ン

- (a) 会社の再建にフシ|ンする
- (b) 今季は成績がフル|わない
- (c) 本館がフシ|ン中のため、新館を使用する
- (d) シ|ンパンのジャッ|ジにクレームをつける
- (e) 暖炉のタキ|ギを補充する

イ コ|キヤク

- (a) 市役所のコ|セキ係に行く
- (b) 選挙カーが候補者の名前をレン|コする
- (c) 亡くなった人をコ|ジンという
- (d) 彼の話にはコ|チョウが多い
- (e) 部活のコ|モンに相談する

ウ ショ|ウチ

- (a) 地方に伝わるデン|ショウを受け継ぐ
- (b) ここが我が社のハッ|ショウの地です
- (c) 相手によってコ|ショウを変える
- (d) 次のオリンピックをシ|ョウチする
- (e) 現代社会にケイ|ショウを鳴らす

問二 二重傍線部 a～c の語句は、本文中でどのような意味で使われているか。最も適当なものを、次の各群の a～e のうちから、それぞれ一つずつ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、a が 、b が 、c が 。

a おそろしく

- Ⓐ 珍しい
- Ⓑ 危険な
- Ⓒ あきれるほどの
- Ⓓ はなはだしい
- Ⓔ 恐ろしい

b 弁が立つ

- Ⓐ 理屈っぽい
- Ⓑ 弁解がましい
- Ⓒ 雄弁である
- Ⓓ わきまえている
- Ⓔ 信念がある

c いささか

- Ⓐ かりそめに
- Ⓑ 一時的に
- Ⓒ 非常に
- Ⓓ わずかなながら
- Ⓔ 思わず

問三 次の文は本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、23。

なにしろそれは、ほかならぬ自分の名前なのだから。

- (a) ①
- (b) ②
- (c) ③
- (d) ④
- (e) ⑤

問四 文中の空欄 W ・ X ・ Y に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、24。

- (a) Wが「さらに」、Xが「あるいは」、Yが「そして」
- (b) Wが「さらに」、Xが「ところが」、Yが「しかし」
- (c) Wが「あるいは」、Xが「ところが」、Yが「しかし」
- (d) Wが「あるいは」、Xが「そして」、Yが「ところが」
- (e) Wが「あるいは」、Xが「ところが」、Yが「そして」

問五 空欄

Z

には、次の①～⑤の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

25

- ① 夫にも——その理屈っぽさにときとしてうんざりすることはあるにしても——基本的には不満はないし、夫の実家に対しても、とくにネガティブな印象を持ってはいない。
- ② 夫の父親は山形県酒田市で開業医をやっている。
- ③ 彼女は結婚生活にこれといって不満や違和感を抱いているわけではない。
- ④ でもいずれにせよ夫の言う（であろう）ことは的を射ていない、と彼女は思う。
- ⑤ 悪くない人たちだ。

- a ④ ↓ ② ↓ ① ↓ ⑤ ↓ ③
- b ④ ↓ ③ ↓ ① ↓ ② ↓ ⑤
- c ① ↓ ③ ↓ ④ ↓ ② ↓ ⑤
- d ① ↓ ② ↓ ④ ↓ ③ ↓ ⑤
- e ② ↓ ⑤ ↓ ③ ↓ ① ↓ ④

問六

傍線部A「彼女は自嘲的に思った」から読み取れる「みずき」の心情として、最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

26

- a 自分は、犬や猫のように首輪をつけられるような情けない人間になってしまったのだろうかという焦り。
- b 名前を思い出せないようだ、一人で生きていくことは難しいので、ペットのように誰かに従属して生きるしかないのではないかと不安。
- c 大の大人が、装身具に自分の名前を入れるなんて、まるで犬や猫のようだと、現在の状況を呆れる気持ち。
- d 自分の記憶力の衰えがひどく進行していることを考えると、このさき人間らしい生活はできないのではないかと絶望感。
- e このブレスレットをつけていれば、名前が思い出せなくても、もう大丈夫だという安心感。

問七 傍線部B「それはあくまで彼女にとっての便宜的な問題に過ぎないと考えているようだった」の記述から、「みずき」の「夫」に関して、どの

ようなことが読み取れるか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、27。

- ① 非常に神経質な性格であり、常に「みずき」の行動に目を光らせている。
- ② 「みずき」の行動を自分なりに解釈するものの、彼女の考えや意識に寄り添うようなことはしない。
- ③ なんでも自己中心的に解釈する性質を持ち、「みずき」の言葉には耳もかそうとはしない。
- ④ 「みずき」のことには関心がないため、「みずき」がどのようにふる舞おうと、どうでもいいと考えている。
- ⑤ 自分の理想や主張へのこだわりが強く、夫婦でありながら、「みずき」のことを全く理解していない。

問八 本文中の記述を参考に、「名前」について、あなたが考えたことを、六十字程度（句読点も一字と数える）で述べなさい。解答番号は、

Ⅲ。



